

岡山県の土地改良



新年のご挨拶

岡山県土地改良事業団体連合会
会長 石井 正弘
(参議院議員)

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は5月1日に令和新時代を迎え、国民皆が来る時代への希望に胸を躍らされました。一方では前線に伴う大雨や相次ぐ台風により、全国各地で河川の氾濫により大規模な災害が発生し、農地や農業用施設にも大きな爪跡を残しました。被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

貿易交渉では、日EU 経済連携協定や TPP11 が既に発効し、新たにこの1月1日より日米貿易協定が発効するなど、物品にかかる関税の削減・撤廃が進んでいきます。農業・農村分野では更に一層、農業の競争力強化を目指した産業政策や、農村の持つ多面的機能の発揮に取り組む地域政策を進めていくことが重要と考えています。

昨年末に決定した令和2年度農業農村整備事業関係当初予算は4,433億円、臨時・特別の措置と令和元年度補正予算を加えますと、6,515億円が確保され、前年度より増額予算を獲得することができました。

これも皆様のご協力、ご理解と熱心な要請活動の成果と感謝申し上げます。

県土連では会員が実施する農業農村整備事業への技術支援で引き続き応えていくとともに、昨年新たに設置した岡山ため池保全管理サポートセンターの強化を図り、ため池の統廃合を含む改修や廃止等の取組を一層支援してまいります。

また、昨年4月土地改良法の一部改正が施行され、土地改良区の業務運営の適正化を図るため組合員資格の拡大、総代会制度や財務会計制度の見直しが行われました。これにも巡回指導等を通じて適切に助言できるよう努めてまいります。

会員のご期待に応えるべく技術力の向上に努めるとともに、強い農業のための基盤づくり実現に向けて更なる予算の拡充を目指し、各関係機関に農業農村整備事業の必要性を訴えてまいりますので、本年も引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、夏には東京オリンピック・パラリンピックが開催され世界から注目されるとともに、日本選手の活躍に大いに盛り上がり、一方で自然災害のない平穏な一年となりますよう、また皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和2年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、6月、8月の大雨、さらに台風第15号、第19号による暴風雨等により、全国各地で非常に多くの災害が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災をされた多くの皆様に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

また、復旧・復興のために、被災地の最前線に立って日夜ご尽力頂いている多くの土地改良関係の皆さまに心から敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

さて私は、本会の会長に就任して以来、「闘う土地改良」を掲げて参りました。そして組織一丸となって闘った結果、平成から新しい元号「令和」となる大きな節目の年に、補正予算などを含めまして、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来ました。

令和2年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案においては、昨年度当初予算を上回る4,433億円を確保することができました。さらに、令和元年度の補正予算・臨時特別措置枠を含めると6,515億円となります。皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

また、昨年7月の参議院選挙におきましては、宮崎雅夫君が強豪ひしめく厳しい闘いの中、見事、勝利を勝ち取りました。進藤金日子参議院議員とともに、土地改良にとって実に12年ぶりの「車の両輪体制」が実現したわけです。

このように土地改良は、新しい元号「令和」の幕開けにふさわしいスタートを切ったわけであります。これも一重に「闘う土地改良」の旗印の下、組織一丸となって闘った結果であり、皆様方の御協力の御陰であります。

いま、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。特にここ数年は大規模な風水害により、農地・農業用施設でも大変大きな被害が続いており、平成30年の7月豪雨では、全国で32カ所のため池が決壊し、尊い人命も犠牲になるなど未曾有の被害が発生しました。

これらの農業農村の危機的な事態に鑑み、2年続けて土地改良法が改正されるとともに、老朽化したため池の整備について抜本的な施策を講ずるため、長年の懸案であった「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が国会で成立、施行されました。さらにいま、政府・与党では「食料・農業・農村基本計画」の見直しも議論されているところであります。

私たち土地改良担当者としては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子

新年明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。昨年は、「令和」の御代に移り、多くの国民が寿ぐ中で天皇陛下が御即位されました。「令和」の時代が平和で穏やかであるようにあらためてご祈念申し上げる次第です。他方、昨年も多くの自然災害が発生しました。被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。今年こそは災害の無い年になるように祈念して止みません。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、総務大臣政務官としての私の担務である「国勢調査」（初回開始後百周年）も行われます。多くの国家的な行事の成功に向けて、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

さて、昨年末に令和元年度補正予算と令和2年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,515億円（対前年度比64億円増）を確保できました。これも偏に、農業の競争力強化と美しい農山村の形成に不可欠な土地改良の実施に向けての現場からの強い要請と、関係者の皆様の熱意を政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、引き続き「国土強靱化」に重点が置かれたこと、水田の高度利用対策が更に重点化されたこと、農業の競争力強化に加えて中山間地域等の条件不利地域の振興対策が手厚く措置されたことだと捉えています。予算の増額措置により土地改良が更に促進されますが、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

昨年末、自民党農村基盤整備議員連盟総会において、ため池の整備促進を図る特別措置法を議員立法として検討することが提案・了承されました。ため池の保全管理を図る法律は、昨年制定・施行されましたが、整備促進に関する多くの課題が現場から提起されています。現場の実態に真摯に耳目を集めつつ検討を深め、与野党問わず多くの国会議員のご理解を得るべく努力してまいります。

皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫さんも参議院議員として活躍しております。これも皆様方のご理解とご支援の賜物です。宮崎議員と私とが水鳥の強固な水掻きとしてフル稼働して、皆様と連携しながら「闘う土地改良」を共闘し、引き続き諸課題の解決とともに令和の新たな時代を切り拓くべく専心努力してまいりますので、ご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

貴会の益々のご発展と本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議
顧問 宮崎 まさお

新年明けましておめでとうございます。

岡山県の土地改良関係の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私にとっての昨年は大きな前進の年でありました。一昨年の1月から、土地改良の推進、農山漁村の振興のため、地球8周分に当たる30万キロ以上を移動しながら全国各地をお伺いし、地域の状況を自分の目で見て、皆様からのご意見を自分の耳で聞き、私の考えを自分の口で話をさせていただくなどの政治活動を行ってまいりました。岡山県の皆様をはじめ全国の皆様からご支援をいただき、お陰様をもちまして昨年7月末の参議院議員通常選挙において当選の栄に浴することができました。

当選後、8月1日に召集された臨時国会で初登院し、10月4日に召集された臨時国会では、農林水産委員会、決算委員会、地方創生及び消費者問題に関する特別委員会、資源エネルギーに関する調査会に所属しております。農林水産委員会等で3度質問に立たせていただき、土地改良の推進や予算の確保などこれまでの活動中皆様から頂いたご意見を私の質問として農林水産大臣等にしっかり伝えました。党での各種部会での発言なども含め、皆様と国政を繋ぐパイプとしての役割を果たせるよう日々努力してまいります。

昨年も残念ながら台風19号をはじめ一連の自然災害により、多大な農林水産関係被害が生じるなど、農地や農業用施設も全国各地で大きな被害が広範囲で発生いたしました。被災された皆様に衷心よりお見舞いを申し上げます。早期の復旧はもちろんですが、土地改良の農村で果たす大きな役割を踏まえ、防災・減災、国土強靱化の取り組みを強力に進めていかなければなりません。

ため池の耐震対策・豪雨対策などのハード面やハザードマップの整備などのソフト面の対策は待ったなしです。政府の「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」による集中的な取り組みが終了する令和2年度以降も更に取り組みが促進するよう全力で取り組んでまいります。

そして、それぞれの地域農業が発展するための基礎となる基盤整備は、着実に進めていかなければなりません。省力化だけではなく若者の興味も高めるスマート農業は平地のみならず中山間地も推進していく必要があります。そのためには情報基盤の整備を含め基盤整備は欠かすことのできないものです。

これらの計画的な実施には、土地改良予算の安定的な確保が必要不可欠です。皆様からの大変大きなご支援により、令和2年度は総額で6,515億円を確保することができました。今後ともこの流れを止めることのないよう尽力してまいります。

また、産業政策だけではなく、家族農業や中小規模の農家、兼業農家の役割を再確認しつつ、地域農業、農村集落自身を守っていくための地域政策をバランスよく実施していかなければなりません。農政の基本となる食料・農業・農村基本計画の5年に一度の見直しが進められていますが、その中にもしっかりと位置づけられる必要があります。

私は「土地改良、農山漁村は未来への礎」と訴えてまいりました。令和の新しい時代に皆様のご意見を伺いながら土地改良を推進することにより、世界に誇る我が国のすばらしい農山漁村を子供たち孫たちに引き継げるよう、先輩の進藤金日子参議院議員と力を合わせて努力をしております。12年ぶりに土地改良二人体制となり、人口減少社会に突入した我が国の状況を踏まえ、土地改良も必要な見直しも大胆に進めたいと考えております。また、農村女性の創造力や企画力、行動力などは、これからの農村振興を加速する重要な原動力と考えています。昨年12月には「全国水土里ネット女性の会」が設立されたところであり、今後の活発な活動に私もお手伝いをさせていただきたいと思っています。引き続き進藤議員と私にご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

今年は、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、更に多くの外国人の方が日本に来られることが期待されています。日本の農業、農村のすばらしさを皆様どんどん発信してまいりましょう。

最後に、本年が皆様にとってよりよい一年となりますようお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年のごあいさつ ～儲かる産業としての農林水産業の確立を目指して～

岡山県農林水産部
部長 伊藤 敦哉

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様方には、平素から本県農林水産行政の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

農林水産業や農山漁村は、私たちの生活に欠くことのできない食料などの生産を行うとともに、県土や自然環境の保全など、県民の生活に密着した多くの機能や役割を有しています。一方で、農林水産業を取り巻く状況は、人口減少や高齢化による担い手の減少、耕作放棄地の増加など厳しさを増しており、経済の国際化の進展による影響も懸念されています。

このような中、県では、県政の羅針盤となる「新晴れの国おかやま生き生きプラン」や本県農林水産行政の基本計画である「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、国内外におけるブランド力の強化や販路の開拓、新規就農者のほか、企業など多様な担い手の確保・育成、供給力の強化、農林水産業を支える生産基盤の計画的な整備等を進めるとともに、知的財産の保護・活用やスマート農業の推進といった、新たな時代の潮流・変化を踏まえた施策展開を図るなど、儲かる産業としての農林水産業の確立に向けた取り組みを進めております。

本県が誇る桃やぶどう、ノリやカキなどの産地形成には、農地の確保や農業用水の安定供給を行う農業生産基盤、水産物の安定生産を支える漁港などの整備が大いに貢献してきたところであります。

しかしながら、こうした産地を支えてきた農業水利施設や漁港施設などの農林水産施設の老朽化が進んでいることから、施設の機能が適切に発揮され、産地の持続的発展が図られるよう、長寿命化対策に積極的に取り組んでおります。

また、安定した農業経営を実現するための高収益作物の導入が可能となるよう、農業用水のパイプライン化や暗渠排水の整備を進めるとともに、担い手への農地の集積・集約化を図るためのほ場の整備を推進しております。

さらに、平成30年7月豪雨による被害の復旧に引き続き全力で取り組むとともに、近年、毎年のように発生している集中豪雨や大規模地震等、自然災害から農山漁村を守るため、排水機場の整備や老朽化したため池の改修・廃止、治山ダムの整備や海岸保全施設の整備等の防災・減災対策を一層進めてまいります。

なお、実施に当たっては、ソフト施策や関係部署と横の連携を一層強め、地域農業の目指す方向に沿って事業を進めていくこととしております。

本年も、関係団体の皆様方と連携しつつ、儲かる産業としての農林水産業の確立を目指して取り組んでまいりまいますので、引き続き力強いご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
参与 堀田 忠弘

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は、本県の農業農村整備事業の推進に当たりまして、格別のご支援とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

岡山県に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨災害の傷跡は大きく、1年半が経過した現在も復旧作業が道半ばといったところであり、昨年発生した災害も含め、引き続き、市町村等とともに、農地や農業用施設の一日も早い復旧に向けて全力で取り組んでまいり所存であります。

さて、農業についてですが、現在、国では、中長期的に取り組むべき方針を定めた「食料・農業・農村基本計画」の5年に一度の見直し作業を進めています。本県のみならず、全国的にも農業就業者の減少や高齢化、農地面積の減少、食料自給率の低迷、貿易自由化の影響等が懸念されているところであり、今年3月には、このような問題を踏まえた新たな方針が決定されるものと思っております。県では、今後の国の動向を注視しつつ、引き続き「新おかやま生き活きプラン」や「21 おかやま農林水産プラン」に目標として位置付けている“儲かる産業としての農林水産業の確立”を目指し、様々な施策に取り組んでまいりたいと存じます。

このような中、農業生産を支える基盤の整備に当たりましては、既存ストックを十分活用し、ソフト施策や農地中間管理機構等と十分に連携しながら、水田の畑地化や地下かんがい施設の整備等を進め、高収益作物の導入による新たな産地づくりを進めてまいります。

また、老朽化が進んだ基幹的な土地改良施設につきましては、施設管理者等と連携し、重要度や緊急度、産地ニーズ等を十分踏まえ、最適な施設規模による保全対策を進めてまいります。

さらに、老朽化したため池の改修や未利用ため池の廃止の積極的な推進などの防災・減災対策のほか、農業集落排水施設や集落道など農村生活環境の整備を進め、魅力あふれる農村の環境づくりを進めてまいり所存であります。

本年も土地改良区や市町村の皆様方と連携をより深めながら、地域の描く農業が実現し、元気で活力ある農業・農村となるよう、様々な施策に取り組んでまいり所存でありますので、会員の皆様のご更なるご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして明るく幸多き年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
耕地課長 細川 信佳

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日頃から農業農村整備事業の推進に当たりまして、多大なご尽力をいただいておりますことに対しまして、深く感謝申し上げます。

昨年も、岡山県を含めた全国各地において、台風や豪雨等による災害で甚大な被害が発生しました。被災された皆様方に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

さて、国では、平成30年7月豪雨災害等を踏まえ、ため池法の整備や3か年緊急対策により、ため池の防災・減災対策を重点的に進めています。本県においても、県土連の協力をいただき、昨年5月に「岡山ため池保全管理サポートセンター」を設置したところであり、市町村等ため池管理者による適正な保全管理と豪雨に対する安全対策を促進しています。

今後は、サポートセンターをさらに強化し、市町村が行う改修や廃止などを技術的に支援することで、ハード・ソフト両面から防災・減災対策の加速化を図り、県民の生命・財産の保護と安全・安心な地域づくりを推進してまいります。

また、農業生産基盤については、昨年2月に策定した新たな「21 おかやま農林水産プラン」で示したとおり、地域が描く将来の農業に最適な整備となるよう、ソフト施策と十分連携を図り、農地の大区画化や野菜等の収益性の高い作物の導入のための生産基盤整備に取り組むとともに、老朽化の影響が懸念されている農業水利施設等の基幹土地改良施設については、地域農業の持続的発展が図られるよう、重要度や緊急度に応じた計画的な保全対策を着実に進めてまいります。

中でも、儲かる農業を実現するため、水田における米から野菜等の高収益作物への転換は必要と考えており、農業農村整備事業では、排水改良はもとより、地下かんがいシステムなどの新たな基盤整備にも取り組んでいます。本年も引き続き、矢掛町や奈義町に整備した地下かんがい施設の展示ほ場で効果の検証を行い、その長所と短所を幅広い方々に知っていただき、導入の参考にさせていただきたいと考えております。

このほか、多面的機能支払交付金においては、事務処理システム導入を推進し、課題となっている事務処理の簡素化に取り組んでおりますので、制度の活用に対して、会員の皆様方の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、本年が皆様にとりまして幸多き発展の年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年ごあいさつ

岡山県農林水産部
農村振興課長 大賀 則男

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より本県の農業・農村の振興にご理解とご協力をいただき心からお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、5月に「平成」から「令和」へと元号が変わり、皇位継承の重要儀式である「大嘗祭」では、本県からも「黒大豆、ブドウ、ナス、干しエビ、干しタコ」が特産品としてお供えされました。また、「ONE TEAM」を合言葉に日本の快進撃に列島が湧いたラグビーワールドカップや、ゴルフの海外メジャー大会である「全英女子オープン」を制し、素敵な笑顔と人柄で一躍、全国の人気者となった岡山県出身の渋野日向子選手の活躍など、明るいニュースも多い一年でした。

一方、台風19号による豪雨災害では、各地の河川が氾濫し、東日本を中心に甚大な被害をもたらすなど、大きな災害に見舞われた一年でもありましたが、本県においては、平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興に向けて、関係機関が一丸となって、災害復旧事業等に取り組んでいるところであります。

こうした中、農村地域では、人口減少や高齢化による担い手の減少、耕作放棄地の増加などの課題がより深刻になっており、県では、市町村や農地中間管理機構等と連携し、担い手への農地の集積・集約を推進するほか、令和2年度から新たに5期対策となる中山間地域等直接支払制度を活用し、集落ぐるみの取組活動を支援しています。

特に、農地中間管理事業の活用による農地集積を推進するため、昨年11月に岡山県農地中間管理事業推進大会を開催したほか、県知事のメッセージを掲載したリーフレットを作成し、農地を貸し出すことへの不安や疑問の解消に努めています。また、県や市町村、農業委員会などの関係機関で構成する農地集積推進チームが直接現地に入り、地域農業の将来に関する話し合いを活性化する取組も進めております。

このほか、中山間地域等の農業・農村の活性化のための中山間地域総合整備事業や農道整備事業、魅力ある地域づくりにつながる農産物直売所への支援や農家民宿など「農泊」の推進、さらには鳥獣被害防止対策にも積極的に取り組んでまいります。また、昨年8月には、棚田地域の持続的発展などを目的とした「棚田地域振興法」が施行され、本県においても、今後、県棚田地域振興計画を策定する予定であり、関係市町村の意見を聴きながら、連携して進めてまいりたいと考えております。

本年も引き続き会員の皆様と力を合わせ、「ONE TEAM」となり、粘り強く諸課題に取り組んでまいりる所存ですので、より一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご健勝とご多幸を祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

『清流で未来をうるおす土地改良～水土里の恵みを新たな世代へ～』

第42回全国土地改良大会 岐阜大会

10月16日（水）、第42回全国土地改良大会岐阜大会が岐阜県岐阜市の岐阜メモリアルセンターで愛ドームで開催され、大会テーマ『清流で未来をうるおす土地改良～水土里の恵みを新たな世代へ～』の下、全国から約4,000名の土地改良関係者が参集し、岡山県からは29名が参加した。

藤原勉岐阜県土連会長の開催県挨拶に始まり、主催者を代表し、二階俊博全土連会長が「岐阜県は日本の縮図といえる変化に富んだ自然条件と大消費地に比較的近い立地条件を生かして多彩な農業を展開している。これを支えてきた多くの先人達に敬意を表する。土地改良は、“闘う土地改良”の旗印の下、実に12年ぶりの『車の両輪体制』が実現した。令和元年の幕開けにふさわしいスタートを切ることができた。」と挨拶した。その後、古田肇岐阜県知事、柴橋正直岐阜市長の歓迎のことばに続いて、伊東良孝農林水産副大臣、野田聖子衆議院議員、小川恒雄岐阜県議会議長、進藤金日子都道府県土連会長会議顧問、宮崎雅夫都道府県土連会長会議顧問が来賓祝辞を述べた。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰41名に表彰状と記念品が授与され、岡山県からは瀧本豊文前井原市長が全土連会長表彰を受賞した。

その後、奥田透農林水産省農村振興局次長による「未来を潤す土地改良」と題しての基調講演が



あり、「農業のカタチ」（株）寺田農園、「法人化による経営の安定とブランド化への展開」農事組合法人本戸営農組合の優良地区事例紹介があった。

岐阜県立恵那農業高等学校の学生2名により大会宣言が高らかに読み上げられた。最後に次期開催県である群馬県土地改良事業団体連合会へ大会旗が引き継がれ、式典の幕を閉じた。

翌日の事業視察は7コースに分かれ、鳥獣害対策と耕作放棄地対策の退散鳥獣・草園、奇跡の集落「三ツ石」竹原農地・水・環境保全会、県営農道ふるさと椿街道などを視察、また岐阜の歴史・文化にもふれた。



表彰された瀧本氏

大会宣言

私たちは、岐阜に生まれ、岐阜で育ちました。私たちは、今、農業高校で農業を学んでいます。

私たちが暮らす岐阜県は、日本の中心に位置します。県の北部は山岳地帯、南部は平野地帯。高冷地から暖地。北部では、夏の涼しい気候を活かし、南部では、温暖な気候を活かし、多彩な農業が行われています。

今、全国で自然災害が多く発生しています。昨年は、7月豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震などにより、農地や農業用施設が甚大な被害を受けました。これを受けて、国は、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を講じました。

今、全国で農業者の高齢化、農業離れが進んでいます。農業後継者不足が深刻化しています。これを受けて、国は、農地バンクとなる「農地中間管理機構」を設立し、地域農業の担い手となる農業者への農地の集積・集約化を推進しています。また、担い手への農地の集積・集約化を加速させるために、農業者の費用負担が伴わない「農地中間管理機構関連農地整備事業」も創設しました。

今、全国で農業者の減少が進んでいます。農業労働力が不足しています。これを受けて、国は、「スマート農業」の推進を図っています。自動走行トラクター、自動水管理システム、リモコン式自走草刈り機など、現在、全国各地で実証実験に取り組んでいます。

自然災害が多い日本。農業後継者不足の日本。農業労働力不足の日本。こうした日本の農業を、10代の私たちが、引き継いでいかなければいけません。

そのために、自然災害に強い農業基盤の整備をしてください。地域農業の担い手が生産しやすい農業基盤の整備をしてください。スマート農業が推進できる農業基盤の整備をしてください。

岐阜県は、県土の8割が豊かな森林です。そこで蓄えられた水が清流となり、農地を潤しています。農地の周りには、農村が形成されています。

清流の水、農地の土、農村の里。水土里の恵みは、新たな世代へ引き継いでいかなければなりません。土地改良は、未来への懸け橋です。

本日ここに集う私たち「水土里ネット」は、「清流で未来をうるおす土地改良～水土里の恵みを新たな世代へ～」を合い言葉に、未来への懸け橋である土地改良を、豊かな恵みである水土里を、新たな世代へ引き継いでいくことを、ここ「清流の国ぎふ」から、高らかに宣言します。

令和元年10月16日

岐阜県立恵那農業高等学校 環境科学科3年 鶴飼 太謙
林 杏実菜

農業農村整備の集い

―農を守り、地方を創る予算の確保に向けて―

11月11日(月)、「農業農村整備の集い―農を守り、地方を創る予算の確保に向けて―」(主催:全国土地改良事業団体連合会、都道府県土地改良事業団体連合会)が東京都千代田区のシェーンバッハ・サボーで開催され、駆け付けた多数の国会議員を含め、全国から1,200名を超える土地改良関係者が参集した。

はじめに、二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長が主催者を代表して挨拶し、「予算編成で一層の高みを目指すには、常に闘っていく姿勢が大事。闘う土地改良は続く」と強調。台風被害の早期復旧・復興や被害防止にも土地改良が重要との認識を示した。

次に、来賓として出席された江藤拓農林水産大臣、森山裕衆議院議員(自民党国会対策委員長)、塩谷立衆議院議員(自民党農林・食料戦略調査会長)、西川公也内閣官房参与、進藤金日子参議院議員(都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧



問)、宮崎雅夫参議院議員(都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問)より祝辞を頂いた。

続いて「令和2年度当初予算の確保」など6項目の要請書が全会一致で採択され、出席者一同、「闘う土地改良」のスローガンのもと、「ガンバロウ」三唱で会を閉会した。

要 請 書 (抜粋)

全国の水土里ネットは、これまで培ってきた経験と技術を活用し、「闘う土地改良」のスローガンの下、次の事項の実現を国に強く要請する。

記

- 一 農林水産業は国の基であり、土地改良はその根幹を成すものである。土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、令和二年度予算について、現場のニーズに応えられるよう、必要な予算を確保すること。
- 二 今般の台風第十九号をはじめとした、近年の大規模災害からの復旧・復興を早急かつ加速度的に進めること。その際は、原形復旧に止まらず、再度災害防止のための措置についても、必要に応じて講じること。
- 三 農業の競争力強化の実現のため、野菜等の高収益作物の導入や、農地集積・集約化を促す農地の大区画化・汎用化と水田の畑地化をより一層推進すること。
- 四 農村地域の国土強靱化の実現のため、老朽化した農業水利施設の長寿命化及び豪雨・耐震化対策等をより一層推進すること。特に、防災・減災、国土強靱化のための三か年緊急対策について、令和二年度で確実に完了するよう、十分な予算措置を講じるとともに、令和三年度以降の対策について、必要な検討を行うこと。
- 五 本年四月に施行された改正土地改良法の適切な運用を図るため、その普及啓発に努めるとともに、土地改良区や組合員の声に真摯に耳を傾け、複式簿記の導入など土地改良区の運営基盤の強化に対する支援を推進すること。
- 六 「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」について、引き続き、広く国民に向けてその周知を図るとともに、現場の実態をよく踏まえた上で、必要となる財政的支援等を講じること。

令和元年 11 月 11 日

全国土地改良事業団体連合会
都道府県土地改良事業団体連合会

令和2年度農業農村整備事業関係予算確保に向けた要望活動 ―岡山県土地改良事業団体連合会・岡山県農業農村整備事業推進協議会合同―

【令和元年11月5日（火）～6日（水）】

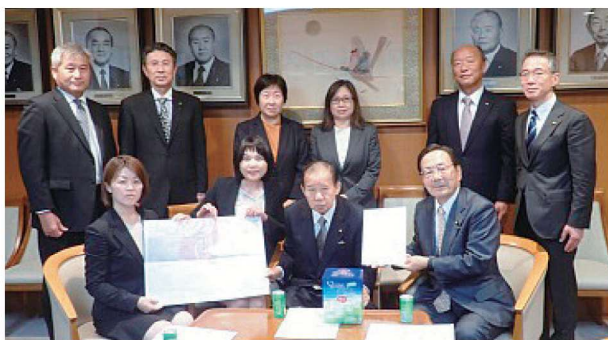
8月末に各省庁から提出された令和2年度予算概算要求の査定作業が行われているなか、岡山県土地改良事業団体連合会石井正弘会長、黒田 晋玉野市長（岡山県農業農村整備事業推進協議会会長）、山野通彦矢掛町長（同協議会副会長）、田窪行雄県土連副会長（同協議会副会長）をはじめとする11名で、農業農村整備事業予算確保に向けた要望活動を行った。要望先は財務省、農林水産省、自由民主党、県選出国議員等で、安定的・計画的な事業執行実現のための予算の確保、国土強靱化に向けた防災・減災対策予算の確保等について要望した。

要望項目

- 1 現場ニーズに応えられる農業農村整備予算の確保について
- 2 国土強靱化の実現に向け、ため池の防災・減災対策予算の確保について

3 多面的機能支払交付金予算の確保について

活動には、県内3大河川の一つである吉井川水系に受益地を持つ3土地改良区から、女性職員が参加した。参加した小坂初江事務職員（砂川右岸土地改良区）、野口智美会計主任（牛窓町土地改良区）、野代幸子主事（吉井川下流土地改良区）からは、「地域では米に加えてぶどう、白菜、キャベツ、かぼちゃ、冬瓜等高収益作物を盛んに栽培している。国営かんがい排水事業のおかげで安定的な農業用水の供給が可能になり、高い栽培技術管理と一体となって、高品質化、高収量化が実現し、産地としてブランドを確立している。これにより、農家経営が安定し、年々新規就農者も参入している。今後も、地域農業の振興が継続的に維持できるよう、現在実施していただいているかんがい排水事業の早期完成と、パイプライン等老朽化した末端の施設の補修について予算の確保を是非お願いしたい。」と要望を行った。



二階俊博自由民主党幹事長



河野義博農林水産大臣政務官



宮島喜文財務大臣政務官



奥田 透農村振興局次長【農林水産省】



山下貴司衆議院議員



あべ俊子衆議院議員



池田道孝衆議院議員



進藤金日子参議院議員
総務大臣政務官 内閣府政務官



小野田紀美参議院議員



谷谷正明参議院議員



片山虎之助参議院議員



令和元年度農業農村整備事業地域推進会議を開催

主催：岡山県土地改良事業団体連合会

土地改良関係者に農業・農村の振興に係る情報を提供し、共通認識を深めるとともに、農業や地域振興の一層の推進を図ることを目的とした農業農村整備事業地域推進会議を県内2か所で開催した。

会議には市町村長をはじめ、岡山県の農業農村整備事業関係者、市町村職員、土地改良区の役職員、県土連等、両会場あわせて185名が参加した。

会議では、総務大臣政務官兼内閣府大臣政務官 参議院議員（都道府県水土里ネット会長会議顧問）進藤金日子氏や、中国四国農政局農村振興部長 松本雅夫氏による講演をはじめ、中国四国農政局及び岡山県からの情報提供、岡山ため池保全管理サポートセンターからの活動報告が行われた。



美作会場



岡山会場

【美作会場】 （日時）令和元年11月1日（金） （場所）津山鶴山ホテル2階「鶴の間」

議 題	講 師	
中山間地域の活性化について	中国四国農政局 農村振興部長	松本 雅夫
岡山県の農業農村整備事業について	岡山県 農林水産部 参与	堀田 忠弘
ため池の防災・減災対策の推進について	岡山県 農林水産部 参与	堀田 忠弘
岡山ため池保全管理サポートセンターの活動について	岡山県土地改良事業団体連合会 審査室長	遠藤 和浩

【岡山会場】 （日時）令和元年11月15日（金） （場所）アークホテル岡山3階「牡丹の間」

議 題	講 師	
ため池の防災・減災対策の推進について	岡山県 農林水産部 耕地課長	細川 信佳
岡山ため池保全管理サポートセンターの活動について	岡山県土地改良事業団体連合会 審査室長	遠藤 和浩
農業農村整備事業等に関する最近の情勢	中国四国農政局 農村振興部 事業計画課長	池田 一行
農業政策と地域政策を先導する 農業農村整備	総務大臣政務官兼内閣府大臣政務官 参議院議員（全国水土里ネット会長会議顧問）	進藤金日子

第 62 回学校農業クラブ岡山県大会

令和元年 11 月 21 日（木）、岡山市南区藤田の岡山県立興陽高等学校において第 62 回学校農業クラブ岡山県大会がスローガン「農業でみんなでつくる 令和のわ」と「育てよう 種から始まる ものがたり」のもとに開催された。

この大会は、8 校で構成する「岡山県学校農業クラブ」の生徒が、日頃の学校での活動の成果を発表し、研修することによって知識と相互の交流を深めるとともに、将来の農業の担い手の育成や産業人としての資質向上を図ることを目的として毎年開催している。

大会の中で、測量競技（セオドライト）の部に、岡山県土地改良事業団体連合会会長賞を授与した。



第 52 回岡山県農林漁業功労者表彰

岡山県の農林漁業の振興に献身的な活動を続けてこられた功績に対し、「岡山県農林漁業功労者表彰」が授与され、土地改良部門では次の方々が受賞されました。

【知事表彰】

溝口 弘 氏（加茂川土地改良区 理事長）津山市

長年にわたり組合員の先頭に立って優れた指導力を発揮し、土地改良区の健全な運営や農業用施設の適正な維持管理に努められました。

また、土地改良区が管理する老朽化が進んだパイプラインの長寿命化対策事業の推進、加茂川合同堰の機能診断や保全計画策定への取組など、地域農業の振興に大きく寄与されました。



【農林水産部長表彰】

加藤 晃敏 氏（上原井領土地改良区 理事長）倉敷市

長年にわたり土地改良区の健全な運営に寄与され、農業用施設の維持管理や水利調整等尽力されました。

また、平成 30 年 7 月豪雨では、耕作可能な水田への用水確保のため、地域の利水者間の調整に努め、地域農業の振興と真備地域の復興に大きく寄与されました。



佐内 繁文 氏（笠岡市山口土地改良区 理事長）笠岡市

長年にわたり土地改良区の健全な運営や農業用施設の適切な保安全管理に尽力されました。

また、老朽化した奥山池の改修にあたり、県営ため池整備事業の実施に貢献するなど、地域農業の振興や地域の安全安心に大きく寄与されました。



東原 透 氏（足守土地改良区 理事長）岡山市

長年にわたりの組合員のとりまとめ役となって、土地改良区の健全な運営や農業用施設の適切な維持管理に努められました。

また、黒谷ダムの新たな水管理システムの導入や老朽化した施設の長寿命化対策の実施に尽力され、地域農業の振興に大きく寄与されました。



三木 康治 氏（香々美川土地改良区 理事長）鏡野町

長年にわたり土地改良区の健全な運営や農業施設の適正な維持管理に努められました。

また、老朽化した香々美ダム放流設備や取水施設等の長寿命化対策を積極的に推進し、維持管理の省力化等に貢献し、地域農業の振興に大きく寄与されました。



土地改良施設見学会

10月4日（金）、土地改良施設見学会が児島湾七区土地改良区の主催により、岡山市立七区小学校の4年生児童14名の参加のもと行われた。

見学会は例年、岡山市立七区小学校の児童を対象に、児童たちが住んでいる地域の土地改良施設の歴史や大切さを学んでもらう事を目的に行っている。

今回は、七区用排水機場や干拓堤防跡、通学路に隣接している幹線用水路などを見学した。

各施設では、講師を務めた児島湾七区土地改良区片山理事長、NPO法人美しい田園21より、干拓地の歴史や用排水機場にあるポンプや除塵機の仕組み、土地改良施設が果たす役割等について説明があった。

参加した児童からは、「排水ポンプの大きさは県内で何番目ですか」との質問があり、岡山県内で2番目との回答に「すごいな」と感心していた。

土地改良施設と歴史に触れることができ、児童にとっては新たな発見となる機会となった。



ホタル幼虫放流会

10月8日（火）、岡山市東区寺山地内の水路でゲンジボタルの幼虫の放流会が行われた。

毎年恒例のこの行事は、吉井川下流土地改良区主催によるもので、中国四国農政局吉井川農業水利事業所、岡山県広域水道企業団も協賛しており、この日は岡山市立御休小学校5年生約30名が参加した。

小林健伸吉井川下流土地改良区理事長の挨拶の後、子供たちは6つの班に分かれ、まず水路の水質のパックテストを行った。各自検査キットを使ってPH、リン酸、CODなど5項目の検査を実施した結果、ホタルや魚が暮らせるきれいな水だということがわかって一安心。次にいよいよ運動靴をサンダルに履き替え、一人ずつ水路へと入って行くと少し冷たい水に最初は驚いた様子だったが、しばらくすると、水中のエビや魚を夢中で追っていた。最後に土地改良区職員等からホタルの幼虫と餌になるカワニナが入ったボールを一人ひとつずつ受け取り、一斉にそっと水路に放流した。

子供たちは終始楽しそうにはしゃいでいたが、地域の田んぼや水路にどんな生き物がいるか、ホタルやそれらの生き物が生きていくためにはどれだけきれいな水が大切かを勉強できた1日となった。



ホタルの一生について説明を聞く



「来年帰って来いよ」と言って一斉に放流



小林理事長の話を聞く子供たち

小阪部川ダム施設保全活動

高梁川用土地改良区が主催する小阪部川ダム施設保全活動が10月29日（火）、新見市の小阪部川ダムで行われ、県土連からは3名が参加した。

この活動は、国営造成施設管理体制整備促進事業に伴う高梁川用水管理体制整備推進協議会の活動の一環として、ダム周辺の景観保全を目的に毎年行われており、今年は、地域住民やボランティア組織など約50名が参加した。

作業はダム周辺と管理事務所に隣接した公園まわりの草刈りとゴミ収集で、約2時間ですっきりした景観を取り戻した。



作業の様子



参加者の集合写真

岡山県土地改良事業団体連合会 令和2年4月職員採用試験のお知らせ

- 【日 程】 受験申込受付 ……令和2年1月6日（月）～ 令和2年2月7日（金）
 試 験 日 ……令和2年2月22日（土）
 合 格 発 表 ……令和2年3月2日（月）
- 【試験区分】 技術職（農業土木）
- 【採用人数】 若干名
- 【勤 務 地】 岡山市 又は 津山市
- 【業務内容】 土地改良、農業農村整備等の事業に関する計画、測量、設計、施工管理等の専門的業務
- 【受験資格】 昭和54年4月2日から平成10年4月1日までに生まれた者。（大学卒業程度）
- 【給 与】 基本給 大卒基本給 193,100 円（給与は岡山県職員に準じます。）
 諸手当 扶養手当、通勤手当、住宅手当、時間外勤務手当
 賞 与 平成30年度実績4.45ヶ月
 資格取得助成有り
 職務経験者については経験年数等により加算致します。
- 【試験内容】 教養試験、専門試験、論文試験、口述試験

詳細については、当会のホームページをご覧ください。 (<http://www.okadoren.or.jp>)

土地改良法の改正に伴う諸規程等の整備

土地改良法の改正（平成31年4月1日施行）に伴う土地改良区諸規程の改正のうち、以下の項目は改正が義務づけられています。

適用期限に留意して規程の整備をお願いします。

改 正 項 目	諸規程の整備			適 用 期 限
	定 款	規 約	その他	
理事の資格要件 理事の5分の3以上は原則として耕作者である組合員とする。	第25条 附属書役員選挙（選任） 規程の整備			令和5年4月1日以降最初に開催される通常総会までに選任
利水調整規程 利水調整規程を策定し、利水調整をルール化、明文化する。	第4条① 第20条	第21条	利水調整規程	令和元年度の通常総会まで
総代選挙 総代選挙について、選挙管理委員会による管理を廃止する。	第14条～第16条 附属書総代選挙規程の整備			平成31年4月1日以降に手続きを開始する総代選挙から適用されるので、選挙前の総会に諮る
決算関係書類 収支決算書に加え、原則として貸借対照表を作成する。 決算関係書類を公表する。		第26条 第42条	会計細則	貸借対照表作成は令和4年事業年度から決算関係書類の公表は令和元年度から
員外監事 監事のうち1人以上は原則として員外監事を置く。	第25条 附属書役員選挙（選任） 規程の整備			令和5年4月1日以降最初に開催される通常総会までに選任

岡山県の土地改良 題字:石井正弘書 第600号 令和2年1月6日発行

発行所 ●岡山県土地改良事業団体連合会 〒700-0824 岡山市北区内山下1丁目3番7号 県土連ビル
 ☎086-225-0921 fax086-226-0068
 総 務 部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館3F
 ☎086-207-2200 fax086-207-2202 e-mail:info@okadoren.or.jp <http://www.okadoren.or.jp>
 事 業 部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館2F
 ☎086-273-2110 fax086-272-3937
 事業部津山 〒709-4603 津山市中北下1300 津山市久米支所2F
 ☎0868-57-7661 fax0868-57-7664

